

2019政策フォーラム

すべての仲間の英知を結集し

未来を切り拓いていこう!



政策フォーラム発表会場から望む岩手山

11月10日～11日、つなぎ温泉ホテル大観において「2019政策フォーラム」を、来賓、準備委員含めて約220名が結集して開催しました。

今政策フォーラムでは、紙面発表を含めて全14機関の提言を2つのセッションに分けて討論を深めました。2日間の討論では、職場現実についての発言、施策を通じた組織拡大の取り組み、職場での継続した検証運動、

自然災害に対して命をいかに守るのか、システム化が進んでも人ではないか、不安定した雇用と生活をつくり出していくのかなど、幅広く様々な視点で33名から発言がありました。労働実感からの発言が多く、提言内容を豊富化していただきました。

盛岡地本は6月に準備委員会を発足して準備を行ってきました。準備地本あいさつで小田島準備委員長から3つの「わー(平和、対話、仲間の輪)」を大切に準備委員会を重ねてきたことなどが話されました。その成果もしっかりと現れ、参加者の建設的な議論と全員の熱意によって政策フォーラムは成功裏に終了することができました。

提言を発表して終わりにすることなく、実現に向けて「職場からの挑戦」を全組合員で展開していきましょう。そして、組織強化・拡大に結実させていきたいと思います!



盛岡地本の準備委員会のみなさん
ありがとうございました!



第1セッション司会
水戸地本
今野業務担当部長



第2セッション司会
千葉地本
丸山業務担当部長



アピールを読み上げる
盛岡地本
小松副青年部長

第1セッション:

職場現実を出発点とした、安全確立に向けて

- 庫2番線(融雪線)を有効に活用する!~汚物採取、給水装置の改良で有効な車両運用と緊急時の車両取り込みに対応する!~【盛岡地本】盛岡新幹線車両センター青森派出所分会
- 「工務職場の将来像」~安全で安心できる未来の職場~【部会】工務部会
- 指導・教育体制はどうあるべきか【八王子地本】政策フォーラムプロジェクト
- 常磐線全線開通間近に迫る!~働く労働者と乗客の健康を考える~【水戸地本】いわき運輸区分会
- 浅間山噴火から考える火山対策【長野地本】バス小諸分会
- 本人の証言をもとに原因究明し、鉄道員としてあるべき姿を、ヒューマンファクターの観点から追究し対策を提起する【国際鉄道安全会議報告】盛岡新幹線運輸区分会

第2セッション:安全・健康・ゆとり・働きがいを実現するための検証運動の強化

- 安全で働きやすい駅の将来を目指して【横浜地本】横浜駅分会
- 「大宮駅の内勤・情報体制の見直し」施策の検証~利用しやすい駅づくり~【大宮地本】大宮駅分会
- 2020年まであと1年、成田エクスプレスを変革し、オリンピック・パラリンピック輸送を職場からつくりだそう!【東京地本】東京車掌区分会
- 働きやすいミライの検修職場をつくるためには【千葉地本】幕張車両センター分会・京葉車両センター分会
- お客さまと乗務員が安全・快適で満足できるワンマン列車と環境を創ろう!【仙台地本】地本プロジェクト
- 乗務員基地再編における奥羽北線の安定輸送の確保を目指して~将来の職場を創造しよう~【秋田地本】能代支部

紙面発表

- エルダール雇用の再構築「JR本体雇用と出向会社とのギャップ解消」【高崎地本】エルダール&OBプロジェクト
- 津波発生時における鉄道旅客の安全確保のための提言【新潟地本】

組合員の現実から出発し

たたかひの中から組織の強化・拡大を実現しよう!

今フォーラムで目指すべきこと

「安全マネジメント」の課題について

立て続けに東日本エリアを襲った台風で、多くの検証視点が生み出されました。

長野新幹線車両センターが浸水し、社員をはじめ29人が庁舎に取り残された問題では、車両はもとより社員の命にかかわる問題も浮き彫りになっています。当時の避難指示の発令状況は地域によって時間差があったのは事実ですが、どのように「命を守る行動」が指示されたのかを詳しく検証しなければなりません。当然にも様々な条件下での判断が迫られますが、社員の命を最優先に守り抜くという原点を経営側とも一致させていかなければなりません。

JR東日本でも浸水リスクを抱えた車両基地が存在します。翌日の運行よりも社員の大切な命、車両・施設などの会社の財産の両者を守ることを優先し、安全・安心を実現することは可能です。利用者に多少の迷惑をかけても、鉄路

を守るために何をなすべきかを労働組合の視点で会社に提起していかなければなりません。

「グループ安全計画2023」では「一人ひとりの『安全行動』を起点に『究極の安全』へ」と謳われています。「安全マネジメントの進化と変革」にも焦点が当てられています。「安全マネジメント」とはどうあるべきかを現実から考えていくことが求められていると言えます。

自然災害に対して、「想定外」という場合はあります。しかし想定外であっても、これまでの経験を活かし最も安全と考えられる手法をとるのが「安全マネジメント」ではないでしょうか。どんな状況でも安全を最優先する行動をとることを、組織として体質化していかなければなりません。

「効率化施策に対する向き合い方」と「職場からの施策検証」について

現在、ワンマン施策について議論を重ねています。団体交渉で会社が言っていることは、私た

ち労働者は利益を生み出す「道具」であると言っているように聞こえます。その人間労働を他の機械に置き換えることによって、余力として生み出された労働力の新たな活用を考えていくと主張しています。まさに資本の論理です。

会社は、人口減少、市場縮小など多くの危機感をベースに効率化施策を打ち出しています。私たちも共有できる危機感もあることから、今まで以上に「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実現できる施策にできるかを議論してきました。この先、要員問題は最大の課題となりますが、体制の現状維持を求めただけでは労働強化しか生まれないことから、施策に向き合ってきました。

会社は「生産性向上」という言葉を以前より多用するようになりました。「生産性向上」という言葉は色が濃いものですが「そんなもの反対だ」と直接的に反発する気持ちもわかりません。しかし、この社会は「労働と資本は対立関係にありながらも社会が成立している」ということから出発しなければなりません。「絶対反対」と、18春闘のような抜けどのなる議論

山口中央執行委員長あいさつ(要旨)

を無責任にやることはできません。これまで蓄積した経験・技術・技能を十分に活かして新たな仕事を行う仕組みづくりを、働きがいという視点を入れて考えていきたいと思います。

今後のたたかひについて

日本の、ほぼすべての企業が「インバウン」に大きな課題を置いています。私たちが取り巻く状況は、労働組合としても経験のない時代へと突入していくのだと感じます。しかし労働組合はいかなる厳しい状況でも雇用と組合員の安全を守るという、その使命を全うしなければなりません。

連合大会でも「労働者代表制」の法制化が求められていますが、私たちは組合員一人ひとりの力と、団結とたたかひの質を高め、労働組合として堂々と組合員を組織化し、たたかひ続けていきます。

JR総連に集う仲間たちからも学び、共にたたかおうではありませんか。厳しい時代だからこそ、組合員の現実から出発し、たたかひの中から組織の足腰を鍛え、組織拡大を実現していきましょう。